



登米地域の稲作通信 第8号

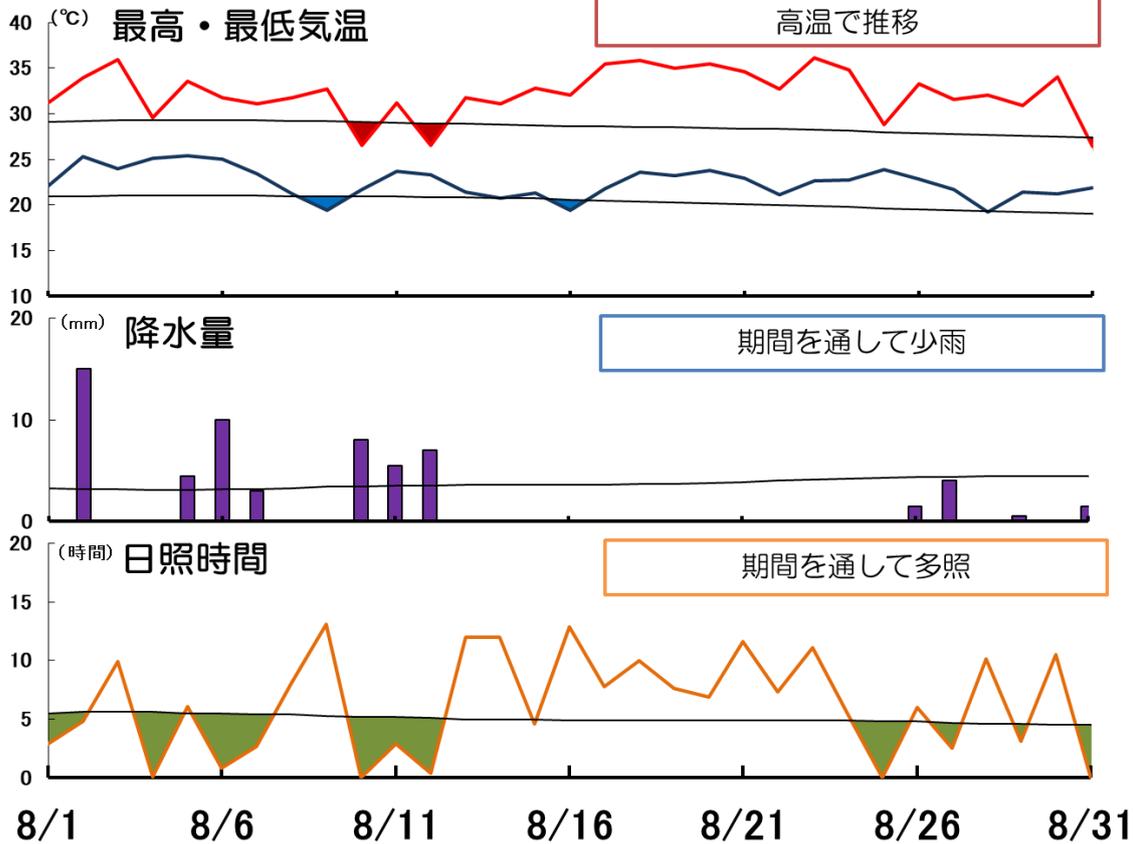
令和7年9月9日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

観測地点：米山アメダス



8月は気温の高い日が続き、平均気温は平年より3.7℃高くなりました。また、最高・最低気温も平年を上回る日が続き、どちらも2℃以上高くなりました。8月上旬の降水量は平年を上回り、平年比125%となりました。しかし、その後は降雨のない日が続き、8月の降水量は平年比52%と少雨となりました。日照時間は期間を通して平年を上回る日が多く、8月の日照時間は平年比124%となり、高温多照な月となりました。

2 生育状況

【管内の出穂状況】

地帯区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和7年	平年	令和7年	平年	令和7年	平年
北部平坦	7月26日 (-2)	7月28日	7月31日 (-1)	8月1日	8月8日 (+1)	8月7日
三陸沿岸	7月27日 (-2)	7月29日	8月1日 (-1)	8月2日	8月8日 (±0)	8月8日
管内	7月26日 (-2)	7月28日	7月31日 (-1)	8月1日	8月8日 (+1)	8月7日

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日。
※平年値は、過去5か年(令和2年~令和6年)の平均値。

管内の出穂期は平年より1日早い7月31日となりました。穂揃期は平年より1日遅い8月8日となりました。

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m)	移植日	出穂後25日						
						穂揃期 葉色(GM)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m)	葉色(GM)	1穂籾数(粒)	m ² 籾数(千粒)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	16.0	前年比・差 +2日 +6日	34.8 -0.4 1.4	97.2 102% 112%	19.1 94% 101%	470.4 100% 105%	30.6 -4.6 -0.4	73.0 87% 102%	34.3 88% 109%
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	15.9	前年比・差 +5日 +5日	34.4 0.8 1.5	90.1 100% 105%	19.9 103% 107%	362.5 78% 82%	34.4 4.8 3.7	88.4 115% 120%	32.0 90% 98%
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日 +9日	35.5 3.1 3.1	78.7 97% 98%	18.4 98% 99%	318.8 88% 87%	31.7 6.7 3.5	74.8 91% 89%	23.8 81% 77%
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.7	前年比・差 +1日 —	35.9 0.2 —	82.7 98% —	18.5 104% —	384.7 92% —	31.8 -0.2 —	85.7 115% —	33.0 105% —
5	だて正夢	—	迫町	18.6	前年比・差 +2日 +1日	36.9 -1.3 0.6	97.9 105% 107%	20.1 100% 102%	442.7 118% 110%	38.0 0.5 1.9	81.0 96% 92%	35.9 113% 102%
7	つきあかり	—	豊里町	19.1	前年比・差 -1日 —	33.8 0.3 —	87.3 114% —	18.6 100% —	290.3 96% —	32.5 0.0 —	119.0 122% —	34.5 117% —

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

※つや姫、つきあかりは調査2年目のため、前年比・差は未記載。

出穂後 25 日調査時点の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれ（登米町）、ササニシキについては、m²当たり穂数が平年より少なくなったため、m²当たり籾数が平年を下回りました。また、つや姫、だて正夢、つきあかりのm²当たり籾数は平年及び前年を上回りました。

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数(本/m)	出穂後25日						
						穂揃期 葉色(GM)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m)	葉色(GM)	1穂籾数(粒)	m ² 籾数(千粒)
1	ササニシキ	ﾌﾞﾗｯｸ ｸﾞﾗﾝﾄﾞ ﾘﾝﾄﾞ ﾙｲ 体 系	米山町	4月26日	前年比・差 110% 113%	87.2 1.5 3.0	37.1 106% 103%	88.2 102% 103%	20.0 362.2 90% 94%	34.7 -0.3 -0.4	90.5 92% 90%	32.8 83% 83%

※ササニシキは調査5年目のため過去4か年の平均値を使用。

出穂後 25 日調査時点の生育状況は、穂数、1穂籾数が平年より少なくなったため、m²当たり籾数は平年を下回りました。

3 今後の管理

(1) 適期刈取

1) 出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定

品種別出穂後積算平均気温による刈取適期の目安

品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数	品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数
ひとめぼれ	940～1,100℃	40～45日	だて正夢	1,020～1,060℃	50日前後
まなむすめ	960～1,050℃		金のいぶき	1,050～1,150℃	50～55日
ササニシキ	930～1,150℃	45～50日	つや姫	1,000～1,200℃	48～60日
みやこがねもち	950～1,150℃		つきあかり	1,000～1,100℃	38～43日

※つや姫は、出穂後1,200℃を超すと茶米の発生が多くなるため、刈り遅れに注意が必要です。

刈取時期が遅くなるほど整粒歩合は低下し、その他未熟粒、基白粒が増加します。特に、出穂後積算気温が1,200～1,300℃になると、胴割粒等も発生して整粒歩合はさらに低下します。

今年も昨年と同様、登熟期間が高温で推移しているため、刈取適期は平年よりも早まっています!!

コンバインや乾燥機の点検などを進め、刈取適期になったら速やかに刈取りができるよう準備し

ておきましょう。刈遅れによる胴割粒や着色粒などの品質低下を防ぐため、籾の熟色等をよく観察し適期刈取りに努めましょう。

出穂期からの積算平均気温に基づく刈取適期予測

品種	刈取適期	出穂期						
		7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月6日	8月8日
ひとめぼれ	940~1100℃	8/31~9/6	9/2~9/8	9/4~9/11	9/7~9/13	9/11~17	9/13~9/20	9/16~9/23
ササニシキ	930~1150℃	8/31~9/8	9/2~9/11	9/4~9/13	9/6~9/16	9/10~9/20	9/13~9/23	9/15~9/26
つや姫	1000~1200℃	—	9/5~9/13	9/7~9/16	9/10~9/18	9/13~9/23	9/16~9/26	9/19~9/29
だて正夢	1020~1060℃	9/3~9/4	9/6	9/8~9/9	9/10~9/11	9/14~9/15	9/17~9/18	9/20~9/21
金のいぶき	1050~1150℃	—	9/7~9/11	9/9~9/13	9/12~9/16	9/16~9/20	9/19~9/23	9/21~9/26
つきあかり	1000~1100℃	9/2~9/6	9/5~9/8	9/7~9/11	9/10~9/13	9/13~9/17	9/16~9/20	9/19~9/23

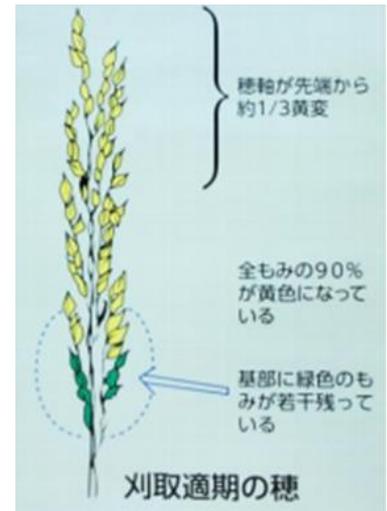
※気温の積算値は9月3日までは実測値。9月4日以降はアメダス（米山）の平年値を用いた。

2) 籾の黄化程度

刈取始期は、籾の黄化程度で判断します。ほ場全体を平均して籾の80~90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期が刈取始期となります。

稔実籾の平均水分は降雨によりバラツキを生じるものの、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」では、登熟期間全体を通してみれば、平均気温の積算値が約50℃増えるごとに稔実籾の平均水分が1%減少するというデータがあります。今年は、今後も高温が続くと予想されています。籾の状態をよく観察し、刈遅れにならないように注意しましょう。

昨年、金のいぶきのほ場では刈遅れや倒伏していないほ場でも穂発芽が発生し、品質が低下しました。刈取適期を逃さないようにしましょう。



(2) 収穫作業

- コンバイン収穫で、籾水分が25.0%以下になってから刈取作業を行いましょう。
- 複数の品種の刈取りを行う場合には、品種が替わる際に十分な清掃を行い、異品種の混入を未然に防ぎましょう。
- クサネムやツユクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除くことができないので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

<籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定>

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数 8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます(図 参照)。

- ◆成熟段階Ⅰ：第1位籾が急速に黄化開始。
 - ◆成熟段階Ⅱ：第1位籾がほぼ(90%)黄化。(7日以内で刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅲ：第1位籾がほとんど(95%)黄化し、第2・3位籾が黄化開始(刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%、第2・3位籾の30%が黄化(積算温度1000℃程度)
 - ◆成熟段階Ⅴ：第2・3位籾が50%以上黄化(刈り取り晚限)
- } 刈取適期

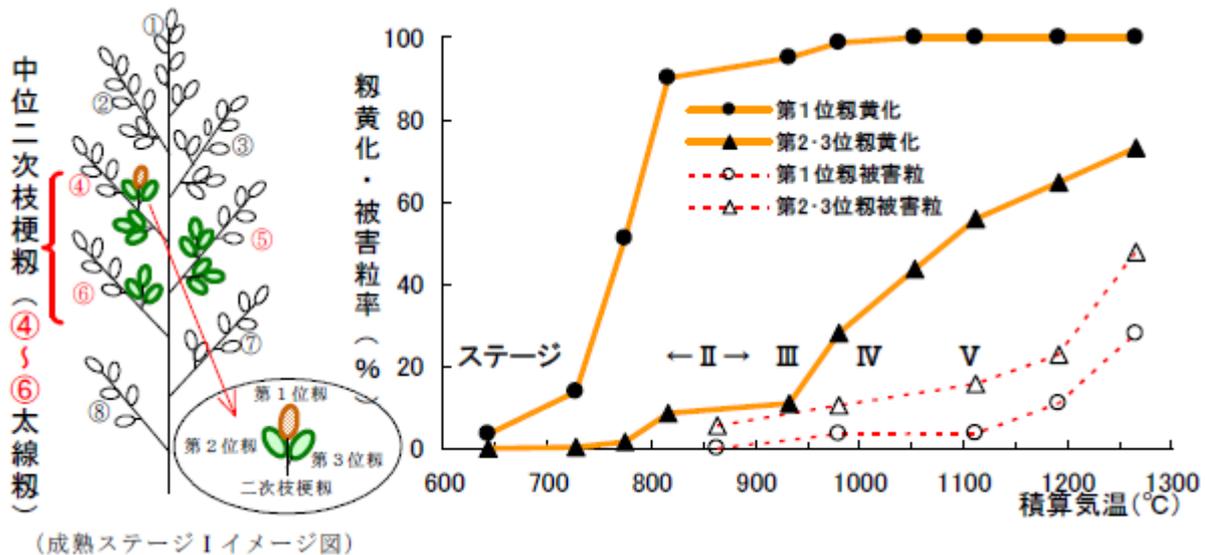


図 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

(3) 乾燥・調製

○コンバイン収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後は、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。今年も出穂後の高温が連続して発現しています。高温による胴割粒発生防止の観点からも、二段乾燥に努めましょう。

※二段乾燥とは：籾水分が 18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後、仕上げ乾燥を行う。

○仕上がり玄米水分 14.5%~15.0%が目標です。

○籾摺は、肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾摺機の場合は、籾（品種）に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。

今年も出穂後に高温が連続して発現しているため、白未熟粒の発生による落等が懸念されます。可能であれば色彩選別機を使用しましょう。

○異品種の混入を防ぐため、品種が変わる毎に機械類の清掃を行いましょう。

農作業安全確認運動 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

(令和7年9月1日から11月30日まで)

安全フレーム・シートベルト着用
→転落・転倒時に安全域にとどまれる確率が高い！

安全域

- 安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用！
- シートベルト、ヘルメット着用の徹底！

ほ場周辺の危険箇所の確認・改善と危険回避行動を！

- 危険箇所の確認・改善
農業機械が通る道路を事前にチェックし、可能な場合は道路の拡幅などの改修やガードレール、路肩ポール、注意標識等で危険箇所を明示しておく。
- 危険回避行動
危険箇所での減速や迂回を実施する。